

日本歯周病学会 第78回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第78回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会 第4次生涯研修）
2. 主催：特定非営利法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 共催：鳥取県歯科衛生士会
4. 日時：平成30年11月18日（日）10:00～15:15（受付9:30～）
5. 鳥取県歯科医師会館
鳥取県鳥取市吉方温泉3丁目751-5
6. 演題：① SPT・メンテナンスに必要な知識と技術
② 口腔衛生指導と生活習慣指導
7. 講師：小田 茂（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会委員）
野村 正子（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会委員）
8. 研修単位：①②の両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
 - ①日本歯周病学会会員の場合
 - ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（8単位）
 - ・更新時の生涯研修単位（10単位）
 - ②日本歯科衛生士会会員・会員外の場合
 - ・第4次研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）
VII-B SPT・メンテナンスの実際 2単位
IV-B 行動変容に必要な知識と技術 1単位
IV-C 禁煙支援 1単位
9. 内容：

受講者は54名で、52名のアンケートを回収した。日本歯周病学会会員は6名で、日本歯科衛生士会員は18名であった。日本歯周病学会認定歯科衛生士の参加者は4名で、内2名が県外の認定歯科衛生士であった。日本歯周病学会、日本歯科衛生士会ともに、非会員の参加が多かったことが推測される。

午前は野村委員より、「行動変容に必要な知識と技術」として、心理学を応用した保健指導に関する講義があった。そして「禁煙支援」については、Prochaskaの健康行動の行動変化のステージ理論を元に、喫煙者の心の動きに沿った支援について概説した。演習1ではファーガストローム・ニコチン依存度テストとTDSニコチン依存度テストの評価内容の違いについて理解を深めた。医療者は相手の病態をみて指導しがちだが、心理学の立場では相手の心の準備状態に合わせて支援する。演習2では「ストレス度チェックリスト」を実施した。自分の隠された（気づいていない）ストレス状態を知ることは、患者さんの心の状態を推測する上でヒントになる。最後に、日本歯周病学会認定歯科衛生士を取得するための流れについて説明した。

午後は小田委員より、歯周組織の健康および口腔機能を生涯維持するために「SPT・メンテナンスに必要な知識と技術」に関する講義があった。歯周治療の歴史に始まり、現在行われている歯周治療の流れを確認した。そして、SPTとメンテナンスの違いと実際について焦点をあてた講義が行われた。新しい情報として、歯周炎の分類(AAP&EFP 2017)やPISAについても概説した。さらに、全身疾患と歯周病の関わりや、SRPとデブライドメント、PTCとPMTTC等、多くの内容が概説された。最後に、

歯肉炎/歯周炎、インプラント周囲粘膜炎/周囲炎の予防の基本は、定期的なメンテナンス/SPTであると締めくくられた。

アンケート結果によれば、日本歯周病学会認定歯科衛生士取得希望者は4名であった。ただ非希望者からも「取りたいが現実的に難しそう」などの書き込みが散見されたので、受講者の関心の高さは感じられた。今後の研修会への要望については、実技の研修会（SRPを含む）や、症例発表会（たくさんの症例がみたい等）の希望が多かった。また、少数意見ではあるが、「認定歯科衛生士のバラつきや底上げのためにも、地方開催を続けて欲しい」「歯科衛生士のペリオの知識や日々のペリオ治療のレベルアップのために歯科衛生士教育講演を地方で続けてほしい」等の書き込みがみられたことから、今後も、認定歯科衛生士の少ない地方での歯科衛生士教育講演の継続の必要性を感じた。



